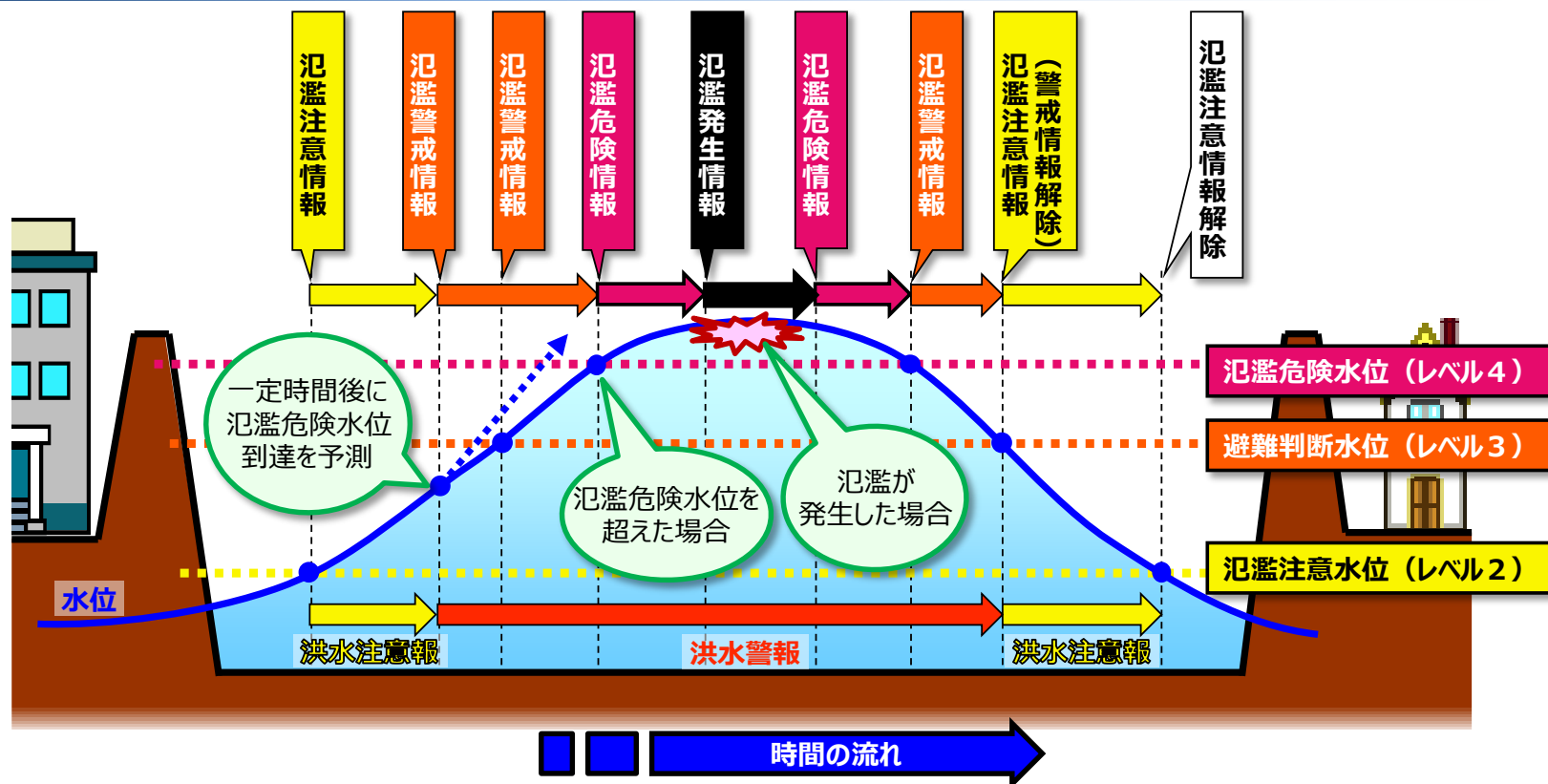


気象防災アドバイザー育成研修「防災気象情報について⑥」
指定河川洪水予報の避難への利用について

気象庁予報部予報課気象防災推進室
予報官(情報改善担当) 高木 康伸

避難勧告等の判断基準と気象警報等との関係（水害：洪水予報河川）



洪水予報の標題(種類)	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
〇〇川氾濫発生情報 (洪水警報)	氾濫の発生（レベル5） (氾濫水の予報)	氾濫水への警戒を求める段階
〇〇川氾濫危険情報 (洪水警報)	氾濫危険水位（レベル4）に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階 (避難勧告 相当)
〇〇川氾濫警戒情報 (洪水警報)	一定時間後に氾濫危険水位（レベル4）に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位（レベル3）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階 (避難準備・高齢者等避難開始 相当)
〇〇川氾濫注意情報 (洪水注意報)	氾濫注意水位（レベル2）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階

洪水予報河川の洪水からの避難が必要となるタイミングとエリア

内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」を基に気象庁作成

避難勧告等 (避難勧告等に関するガイドライン（発令基準・防災体制編） P1、P6、P10～P26）			気象警報等	
対象区域の考え方	種類	判断基準の設定例	種類	
○避難勧告等の対象とする区域 ・洪水ハザードマップやその基となる各河川の洪水浸水想定区域を基本として設定する。 ○立退き避難が必要な状況 ・河川から氾濫した水の流れが直接家屋の流失をもたらすおそれがある場合 ・氾濫した水の浸水の深さが深く、屋内安全確保をとるのみでは命に危険が及ぶおそれがある場合 ・人が居住・利用等している地下施設・空間のうち、その居住者・利用者に命の危険が及ぶおそれがある場合 ・ゼロメートル地帯のように浸水が長期間継続するおそれがある場合	避難指示 (緊急)	・決壊や越水・溢水が発生した場合 ・A川のB水位観測所の水位が、氾濫危険水位である（又は当該市町村・区域の危険水位に相当する）〇〇mを越えた状態で、指定河川洪水予報の水位予測により、堤防天端高（又は背後地盤高）である〇〇mに到達するおそれが高い場合（越水・溢水のおそれがある場合） ・異常な漏水・侵食の進行や亀裂・すべり等により決壊のおそれが高まった場合 ・樋門・水門等の施設の機能支障が発見された場合（発令対象区域を限定する）	氾濫発生 情報	洪水警報
	避難勧告	・指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位である〇〇mに到達したと発表された場合（又は当該市町村・区域の危険水位に相当する〇〇mに到達したと確認された場合） ・指定河川洪水予報の水位予測により、A川のB水位観測所の水位が堤防天端高（又は背後地盤高）を越えることが予想される場合（急激な水位上昇による氾濫のおそれがある場合） ・異常な漏水・侵食等が発見された場合 ・避難勧告の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合	氾濫危険 情報	
	避難準備 ・ 高齢者等 避難開始	・指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が避難判断水位である〇〇mに到達したと発表され、かつ、水位予測において引き続きの水位上昇が見込まれている場合 ・指定河川洪水予報の水位予測により、A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位に到達することが予想される場合（急激な水位上昇による氾濫のおそれがある場合） ・軽微な漏水・侵食等が発見された場合。 ・避難準備・高齢者等避難開始の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合	氾濫警戒 情報	
・気象注意報が発表された場合は、防災気象情報を入手し、気象状況の進展を見守る。 ・連絡要員を配置し、防災気象情報の把握に努める。			氾濫注意 情報	洪水 注意報
(注) 避難が必要な状況が夜間・早朝となる場合にはより早期の対応が必要になること等がガイドラインでは示されています。			—	予告的な 気象情報

洪水予報河川の洪水からの避難が必要となるエリア

水害の避難勧告等

(避難勧告等に関するガイドライン(発令基準・防災体制編) P1、P6、P10～P26)

対象地域の考え方

○避難勧告等の対象とする区域

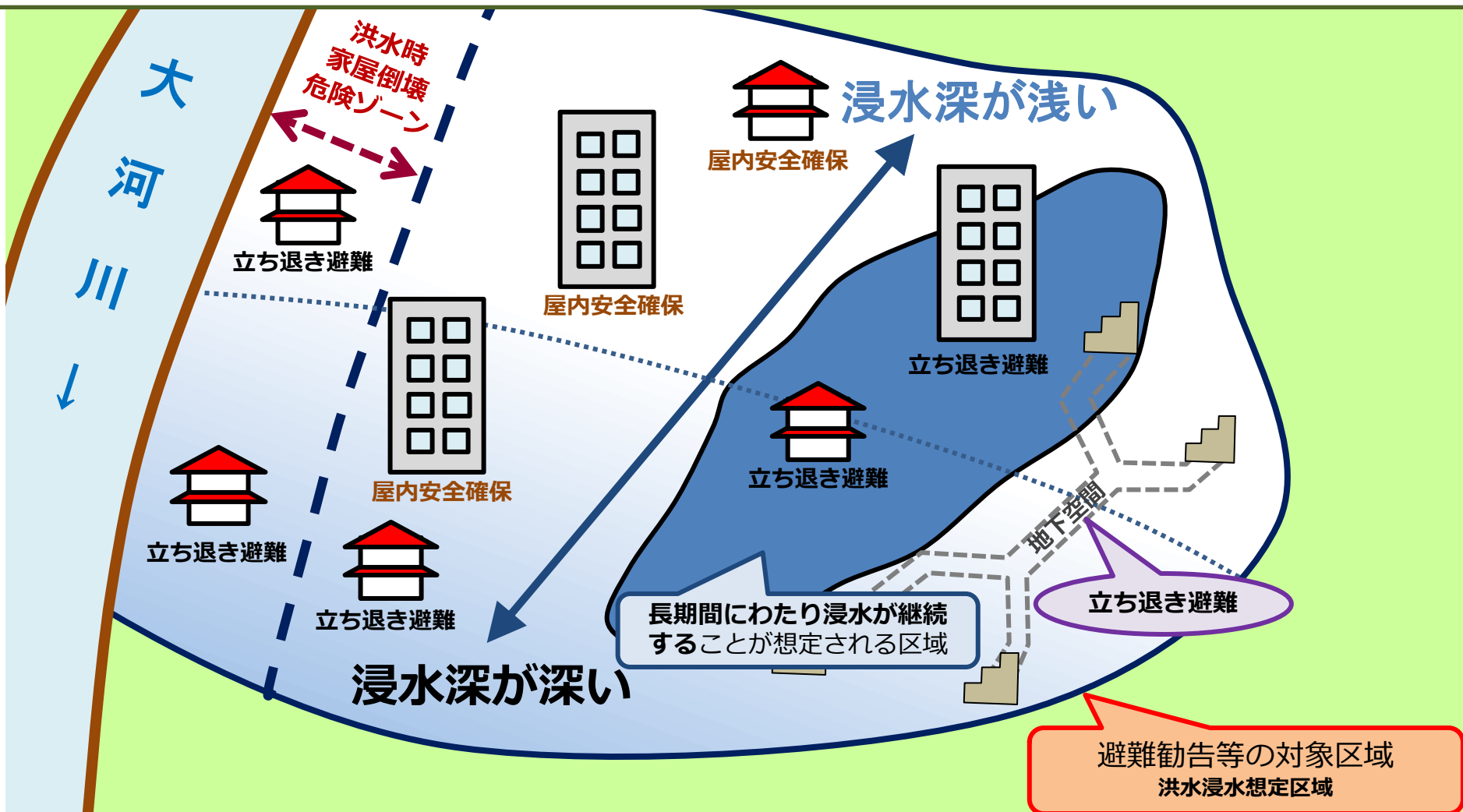
- ・ 洪水ハザードマップやその基となる各河川の洪水浸水想定区域を基本として設定する。

○立退き避難が必要な状況

- ・ 河川から氾濫した水の流れが直接家屋の流失をもたらすおそれがある場合
- ・ 氾濫した水の浸水の深さが深く、屋内安全確保をとるのみでは命に危険が及ぶおそれがある場合
- ・ 人が居住・利用等している地下施設・空間のうち、その居住者・利用者に命の危険が及ぶおそれがある場合
- ・ ゼロメートル地帯のように浸水が長期間継続するおそれがある場合

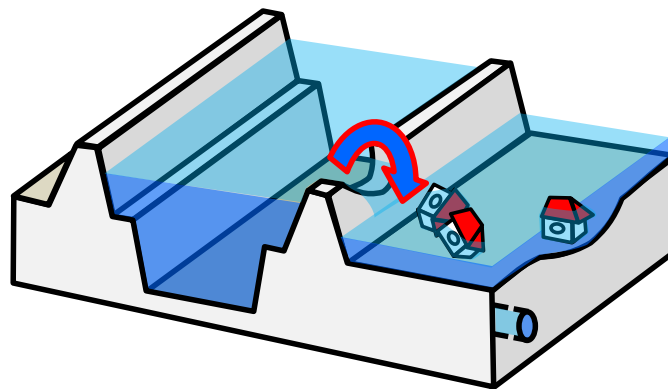
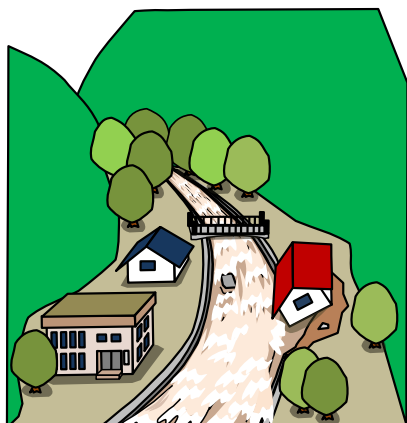
河川において避難勧告等の対象とする区域と避難行動について

- ・市町村は、水害の可能性のある範囲全体を対象に避難勧告等を発令する。
- ・各人は、洪水ハザードマップを基に、立ち退き避難が必要な場所なのか、上階への移動等の屋内安全確保で命を脅かされる可能性がない場所なのかをあらかじめ確認・認識し、避難行動をとる。



洪水害で命が奪われる危険性がある場所

山間部等の流れの速い中小河川などで水流によって川岸が削られるなどして家屋が押し流されるおそれがある場合、あるいは、中小河川の氾濫が発生したときの浸水の深さが深く、最上階の床の高さまで浸水するおそれがある場合などには、洪水害で命に危険が及ぶおそれがある。



山間部等の流れの速い河川で水流によって川岸が削られて押し流されるおそれがある家屋
河川の氾濫が発生したときに水流によって押し流されるおそれがある家屋
河川の氾濫が発生したときに最上階の床の高さまで浸水するおそれがある家屋 など

(図：気象庁作成)

避難勧告等の判断基準と気象警報等との関係（水害：洪水予報河川）

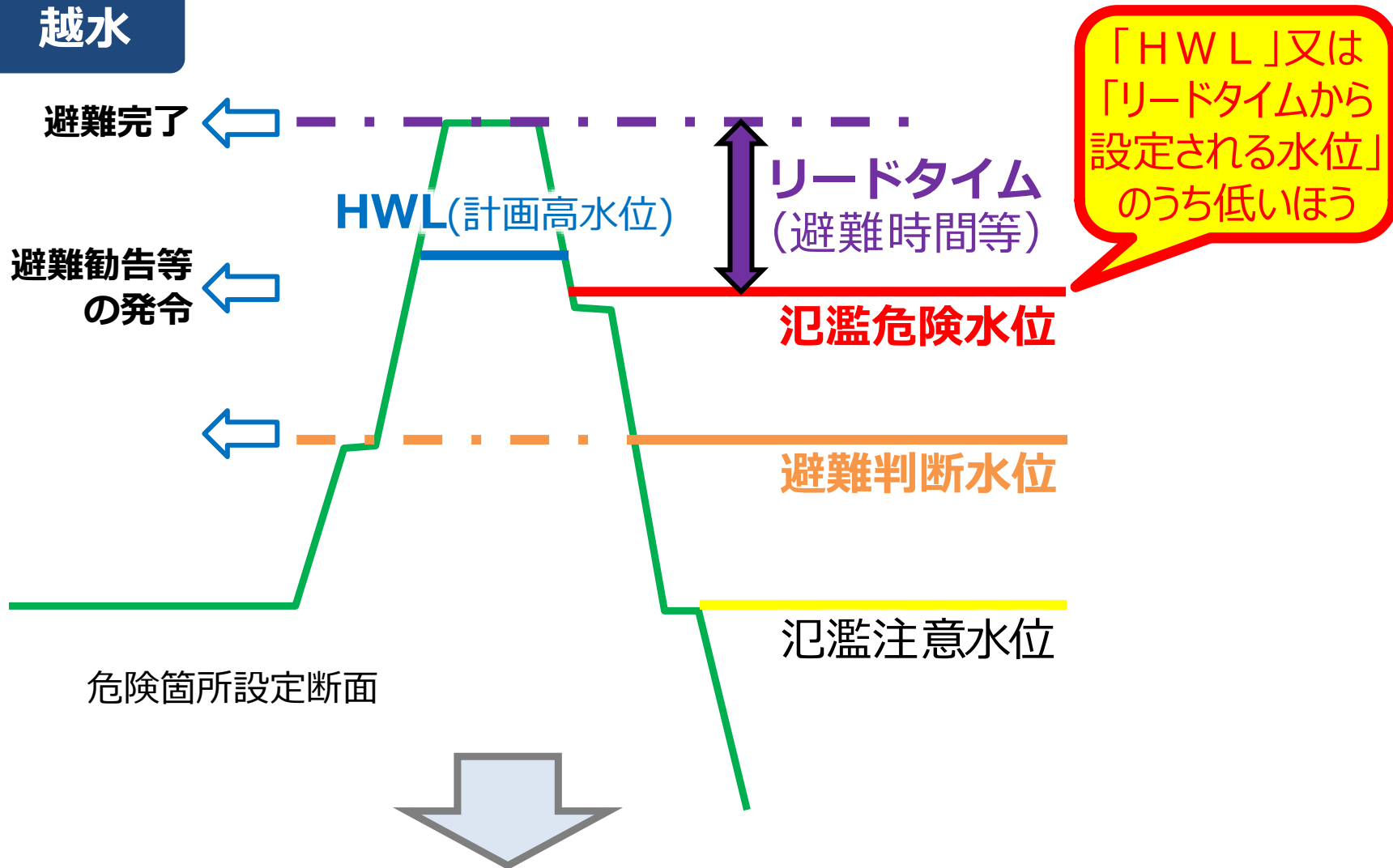
水害の避難勧告等

（避難勧告等に関するガイドライン（発令基準・防災体制編） P1、P6、P10～P26）

種類	判断基準の設定例
避難指示 （緊急）	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>決壊や越水・溢水が発生した場合</u> ・ A川のB水位観測所の水位が、氾濫危険水位である（又は当該市町村・区域の危険水位に相当する）〇〇mを越えた状態で、指定河川洪水予報の水位予測により、堤防天端高（又は背後地盤高）である〇〇mに到達するおそれが高い場合（越水・溢水のおそれのある場合） ・ 異常な漏水・侵食の進行や亀裂・すべり等により決壊のおそれが高まった場合 ・ 樋門・水門等の施設の機能支障が発見された場合（発令対象区域を限定する）
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が<u>氾濫危険水位</u>である〇〇mに到達したと発表された場合（又は当該市町村・区域の危険水位に相当する〇〇mに到達したと確認された場合） ・ 指定河川洪水予報の水位予測により、A川のB水位観測所の水位が堤防天端高（又は背後地盤高）を越えることが予想される場合（急激な水位上昇による氾濫のおそれのある場合） ・ 異常な漏水・侵食等が発見された場合 ・ 避難勧告の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合
避難準備 ・ 高齢者等 避難開始	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が<u>避難判断水位</u>である〇〇mに到達したと発表され、かつ、水位予測において引き続きの水位上昇が見込まれている場合 ・ 指定河川洪水予報の水位予測により、A川のB水位観測所の水位が<u>氾濫危険水位</u>に到達することが予想される場合（急激な水位上昇による氾濫のおそれのある場合） ・ 軽微な漏水・侵食等が発見された場合。 ・ 避難準備・高齢者等避難開始の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合

(参考) 氾濫危険水位等の設定

越水

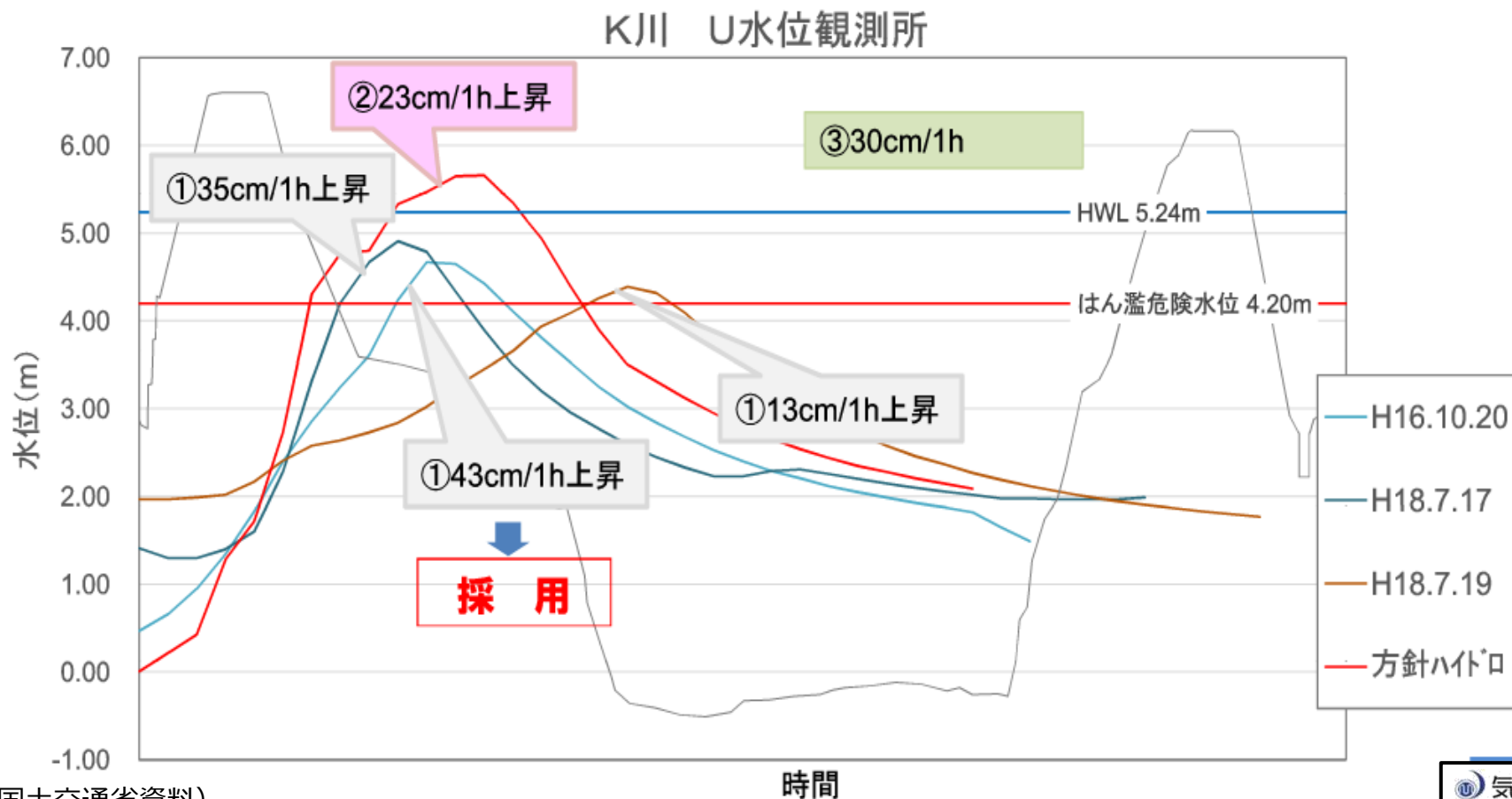


堤防の高さに基づいて設定

危険水位設定時の水位上昇速度の設定例

➤ 以下のうち、最も大きいものを採用することを基本とする。

- ① 過去10年の氾濫危険水位を超えた出水の氾濫危険水位に到達した時間からピーク水位に到達するまでの平均水位上昇量
- ② 浸水想定で用いている計画規模のハイドロの同様の平均水位上昇量
- ③ 現在、避難判断水位の設定に用いている水位上昇速度



指定河川洪水予報と避難情報が必要となるタイミング

洪水予報の標題(種類)	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
〇〇川氾濫発生情報 (洪水警報)	氾濫の発生(レベル5) (氾濫水の予報)	氾濫水への警戒を求める段階
〇〇川氾濫危険情報 (洪水警報)	氾濫危険水位(レベル4)に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階 (避難勧告 相当)
〇〇川氾濫警戒情報 (洪水警報)	一定時間後に氾濫危険水位(レベル4)に到達が 見込まれる場合、あるいは避難判断水位(レベル3) に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階 (避難準備・高齢者等避難開始 相当)
〇〇川氾濫注意情報 (洪水注意報)	氾濫注意水位(レベル2)に到達し、さらに水位の 上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階

氾濫が発生すると、命に危険が及ぶおそれがあることから、浸水想定区域等にお住まいの方は、できる限り早めの避難を心がけ、高齢者等は遅くとも**氾濫警戒情報**が発表された段階で、一般の方は遅くとも**氾濫危険情報**が発表された段階で、速やかに避難開始の判断をすることが重要です。

洪水予報河川の洪水からの避難が必要となるタイミングとエリア

内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」を基に気象庁作成

避難勧告等

(避難勧告等に関するガイドライン(発令基準・防災体制編) P1、P6、P10～P26)

気象警報等

対象区域の考え方

種類

判断基準の設定例

種類

○避難勧告等の対象とする区域

- 洪水ハザードマップやその基となる各河川の洪水浸水想定区域を基本として設定する。

○立退き避難が必要な状況

- 河川から氾濫した水の流れが直接家屋の流失をもたらすおそれがある場合
- 氾濫した水の浸水の深さが深く、屋内安全確保をとるのみでは命に危険が及ぶおそれがある場合
- 人が居住・利用等している地下施設・空間のうち、その居住者・利用者に命の危険が及ぶおそれがある場合
- ゼロメートル地帯のように浸水が長期間継続するおそれがある場合

避難指示 (緊急)

- 決壊や越水・溢水が発生した場合
- A川のB水位観測所の水位が、氾濫危険水位である(又は当該市町村・区域の危険水位に相当する)〇〇mを越えた状態で、指定河川洪水予報の水位予測により、堤防天端高(又は背後地盤高)である〇〇mに到達するおそれが高い場合(越水・溢水のおそれがある場合)
- 異常な漏水・侵食の進行や亀裂・すべり等により決壊のおそれが高まった場合
- 樋門・水門等の施設の機能支障が発見された場合(発令対象区域を限定する)

避難勧告

- 指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位である〇〇mに到達したと発表された場合(又は当該市町村・区域の危険水位に相当する〇〇mに到達したと確認された場合)
- 指定河川洪水予報の水位予測により、A川のB水位観測所の水位が堤防天端高(又は背後地盤高)を越えることが予想される場合(急激な水位上昇による氾濫のおそれがある場合)
- 異常な漏水・侵食等が発見された場合
- 避難勧告の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合

避難準備 ・ 高齢者等 避難開始

- 指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が避難判断水位である〇〇mに到達したと発表され、かつ、水位予測において引き続きの水位上昇が見込まれている場合
- 指定河川洪水予報の水位予測により、A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位に到達することが予想される場合(急激な水位上昇による氾濫のおそれがある場合)
- 軽微な漏水・侵食等が発見された場合
- 避難準備・高齢者等避難開始の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合

氾濫発生 情報

氾濫危険 情報

氾濫警戒 情報

氾濫注意 情報

洪水警報

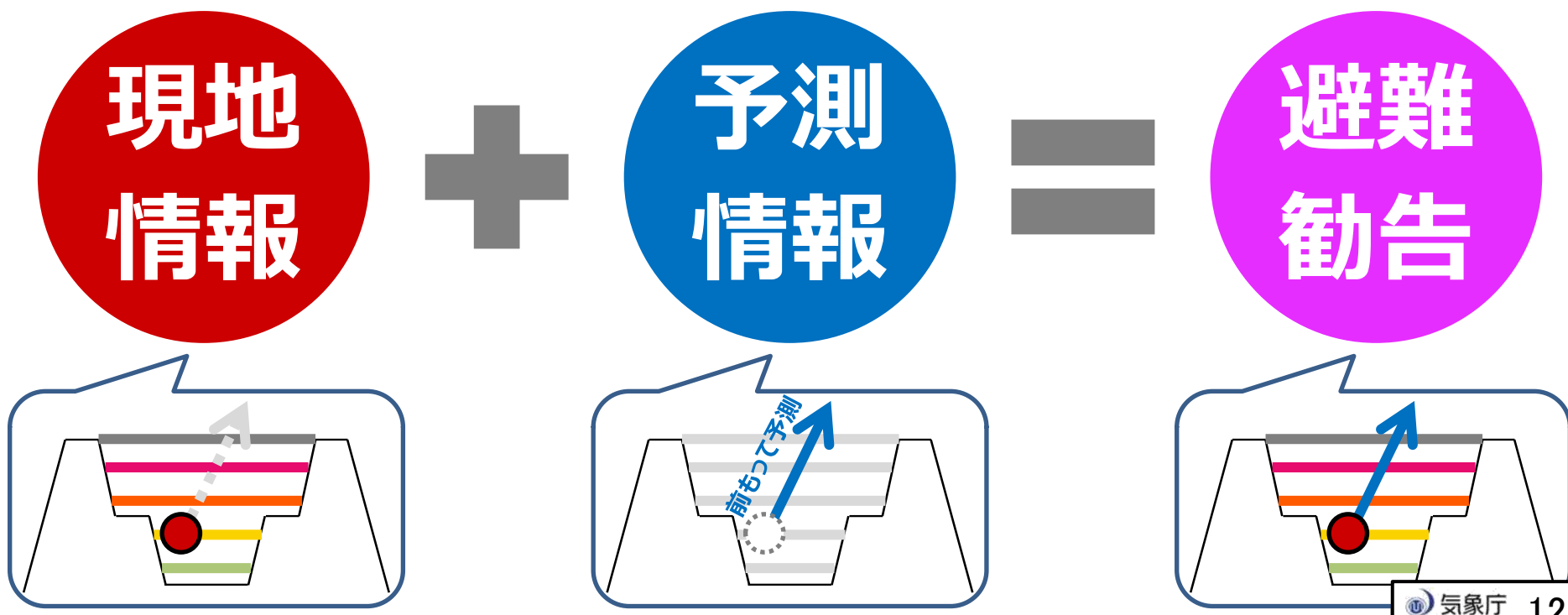
洪水 注意報

- 気象注意報が発表された場合は、防災気象情報を入手し、気象状況の進展を見守る。
- 連絡要員を配置し、防災気象情報の把握に努める。

(注) 避難が必要な状況が夜間・早朝となる場合にはより早期の対応が必要になること等がガイドラインでは示されています。

(参考) 中小河川における避難勧告の判断の考え方

内閣府の「避難勧告等に関するガイドライン」が平成29年1月に改定され、急激な水位上昇が発生する中小河川（水位周知河川・その他河川）における避難勧告等の判断には、水位計や監視カメラ画像から得られる“現地情報”に加え、「流域雨量指数の予測値」（洪水警報の危険度分布）などの水位上昇の見込みが判断できる“予測情報”も合わせて活用するという新たな考え方が追記されました。



水位周知河川の洪水からの避難が必要となるタイミングとエリア

内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」を基に気象庁作成

避難勧告等

(避難勧告等に関するガイドライン(発令基準・防災体制編) P1、P6、P10～P26)

気象警報等

対象区域の考え方

種類

判断基準の設定例

種類

○避難勧告等の対象とする区域
・洪水ハザードマップやその基となる各河川の洪水浸水想定区域を基本として設定する。

○立退き避難が必要な状況

- ・河川から氾濫した水の流れが直接家屋の流失をもたらすおそれがある場合
- ・山間部等の川の流れの速いところで、河岸侵食や氾濫流により、家屋流失をもたらすおそれがある場合
- ・氾濫した水の浸水の深さが深く、屋内安全確保をとるのみでは命に危険が及ぶおそれがある場合
- ・人が居住・利用等している地下施設・空間のうち、その居住者・利用者に命の危険が及ぶおそれがある場合

避難指示
(緊急)

避難勧告

避難準備
・
高齢者等
避難開始

- ・決壊や越水・溢水が発生した場合
- ・A川のB水位観測所の水位が堤防高(又は背後地盤高)である〇〇mに到達するおそれが高い場合(越水・溢水のおそれのある場合)
- ・異常な漏水・侵食の進行や亀裂・すべりの発生等により決壊のおそれが高まった場合
- ・樋門・水門等の施設の機能支障が発見された場合(発令対象区域を限定する)

- ・A川のB水位観測所の水位が**氾濫危険水位(洪水特別警戒水位)**である〇〇mに到達した場合
- ・A川のB水位観測所の水位が**氾濫注意水位(又は避難判断水位)**を越えた状態で、次の①～③のいずれかにより、急激な水位上昇のおそれがある場合
 - ①B地点上流の水位観測所の水位が急激に上昇している場合
 - ②A川の**流域雨量指数の予測値が洪水警報基準を大きく超過する場合**
 - ③B地点上流で大量又は強い降雨が見込まれる場合(実況雨量や予測雨量において、累加雨量が〇〇mm以上、又は時間雨量が〇〇mm以上となる場合)
- ・異常な漏水・侵食等が発見された場合
- ・避難勧告の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合

- ・A川のB水位観測所の水位が**避難判断水位**である〇〇mに到達した場合
- ・A川のB水位観測所の水位が**水防団待機水位(又は氾濫注意水位)**を越えた状態で、次の①～③のいずれかにより、急激な水位上昇のおそれがある場合
 - ①B地点上流の水位観測所の水位が急激に上昇している場合
 - ②A川の**流域雨量指数の予測値が洪水警報基準に到達する場合**
 - ③B地点上流で大量又は強い降雨が見込まれる場合(実況雨量や予測雨量において、累加雨量が〇〇mm以上、又は時間雨量が〇〇mm以上となる場合)
- ・軽微な漏水・侵食等が発見された場合
- ・避難準備・高齢者等避難開始の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合

氾濫発生
情報

氾濫危険
情報

氾濫警戒
情報

氾濫注意
情報

洪水警報

流域雨量
指数の
予測値
(氾濫注意
水位等を
越えている
場合)

洪水警報

流域雨量
指数の
予測値
(水防団待
機水位等を
越えている
場合)

洪水注意報

—

予告的な
気象情報

(注1) 流域雨量指数の予測値は、水位上昇の見込みを判断するための情報です。

(注2) 避難が必要な状況が夜間・早朝となる場合にはより早期の対応が必要になること等がガイドラインでは示されています。

その他河川の洪水からの避難が必要となるタイミングとエリア

内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」を基に気象庁作成

避難勧告等 (避難勧告等に関するガイドライン(発令基準・防災体制編) P1、P6、P10～P26)			気象警報等
対象区域の考え方	種類	判断基準の設定例	種類
<p>○避難勧告等の対象とする区域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内安全確保をとるのみでは命に危険が及ぶ河川について、河川管理者や気象台からの助言も踏まえ、それぞれの河川特性等に応じて区域を設定する。 <p>○立退き避難が必要な状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間部等の川の流れの速いところで、河岸侵食や氾濫流により、家屋流失をもたらすおそれがある場合 ・氾濫した水の浸水の深さが深く、屋内安全確保をとるのみでは命に危険が及ぶおそれがある場合 ・人が居住・利用等している地下施設・空間のうち、その居住者・利用者に命の危険が及ぶおそれがある場合 		<ul style="list-style-type: none"> ・大雨特別警報(浸水害)が発表された時には、既に避難勧告等が発令されていることが想定され、適切な区域に発令されているか等、実施すべき措置がとられているかを再確認する 	大雨特別警報(浸水害)
	避難指示(緊急)	<ul style="list-style-type: none"> ・決壊や越水・溢水が発生した場合 ・A川のB水位観測所の水位が堤防高(又は背後地盤高)である〇〇mに到達するおそれが高い場合(越水・溢水のおそれのある場合) ・異常な漏水・侵食の進行や亀裂・すべりの発生等により決壊のおそれが高まった場合 ・樋門・水門等の施設の機能支障が発見された場合(発令対象区域を限定する) 	洪水警報
	避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> ・A川のB水位観測所の水位が〇〇m(氾濫注意水位等)に到達し、次の①～③のいずれかにより、引き続き水位上昇のおそれがある場合 ①B地点上流の水位観測所の水位が上昇している場合 ②A川の流域雨量指数の予測値が洪水警報基準を大きく超過する場合 ③B地点上流で大量又は強い降雨が見込まれる場合(実況雨量や予測雨量において、累加雨量が〇〇mm以上、又は時間雨量が〇〇mm以上となる場合) ・異常な漏水・侵食等が発見された場合 ・避難勧告の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 	流域雨量指数の予測値 (氾濫注意水位等を越えている場合)
	避難準備・高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none"> ・A川のB水位観測所の水位が〇〇m(水防団待機水位等)に到達し、次の①～③のいずれかにより、引き続き水位上昇のおそれがある場合 ①B地点上流の水位観測所の水位が上昇している場合 ②A川の流域雨量指数の予測値が洪水警報基準に到達する場合 ③B地点上流で大量又は強い降雨が見込まれる場合(実況雨量や予測雨量において、累加雨量が〇〇mm以上、又は時間雨量が〇〇mm以上となる場合) ・軽微な漏水・侵食等が発見された場合 ・避難準備・高齢者等避難開始の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 	洪水警報 流域雨量指数の予測値 (水防団待機水位等を越えている場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・気象注意報が発表された場合は、防災気象情報を入手し、気象状況の進展を見守る。 ・連絡要員を配置し、防災気象情報の把握に努める。 			洪水注意報

(注1) 流域雨量指数の予測値は、水位上昇の見込みを判断するための情報です。

(注2) 避難が必要な状況が夜間・早朝となる場合にはより早期の対応が必要になること等がガイドラインでは示されています。

予告的な
気象情報

危険度分布の色に応じた避難行動（中小河川の洪水害）

色が持つ意味	説明※1・2	内閣府のガイドラインの 発令基準に対応する避難情報
極めて危険 すでに基準Ⅲに 到達	流域雨量指数の実況値が過去の重大な洪水害発生時に匹敵する値にすでに到達。重大な洪水害が すでに発生 しているおそれが高い極めて危険な状況。	
非常に危険 3時間先までに基準Ⅲに 到達すると予測	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水害が発生するおそれが高い。 水位が氾濫注意水位等を越えている場合には速やかに避難を開始する。 ※3	氾濫注意水位等を越えていれば 避難勧告
警戒（警報級） 3時間先までに基準Ⅱに 到達すると予測	水位が水防団待機水位等を越えている場合には避難の準備 をして早めの避難を心がける。※4 高齢者等は速やかに避難を開始する。	水防団待機水位等を越えていれば 避難準備・ 高齢者等避難開始
注意（注意報級） 3時間先までに基準Ⅰに 到達すると予測	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。	
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	

※1 洪水警報の危険度分布に関わらず、自治体から避難勧告等が発令された場合や河川管理者から氾濫危険情報等が発表された場合には速やかに避難行動をとってください。

※2 洪水予報河川の外水氾濫については、洪水警報の危険度分布ではなく、河川管理者と気象台が共同で発表している指定河川洪水予報等を踏まえて避難勧告等が発令されますので、それらに留意し、適切な避難行動を心がけてください。

※3 その他河川では水位を観測していない河川がありますので、その場合は、早めの避難の観点から、速やかに避難を開始することが重要です。

※4 その他河川では水位を観測していない河川がありますので、その場合は、避難の準備をして早めの避難を心がけてください。

洪水警報の危険度分布の色に応じた住民等の行動の例

色が持つ意味	避難情報や水位情報等に応じた 住民等の行動の例※1・2	流域雨量指数の各基準への到達状況と そこから想定される周囲の状況例
極めて危険 すでに警報基準の 一段上の基準に到達	《流域雨量指数の実況値が過去の重大な洪水害発生時に匹敵する値にすでに到達。 重大な洪水害（家屋の床上浸水等）がすでに発生しているおそれが高い極めて危険な状況。》	
非常に危険 3時間先までに 警報基準の一段上の 基準に到達すると予想	重大な洪水害が発生するおそれが赤色（警報級）よりもさらに高まると予想されており、水位が氾濫注意水位等を越えていれば自治体から避難勧告が発令されうる非常に危険な状況となっているため、自治体の避難情報を確認し、 ＜避難勧告等が発令されている場合＞ 速やかに避難を開始する。 ＜避難勧告等が発令されていない場合＞ 河川の水位情報を確認し※3、 水位が氾濫注意水位等を越えている場合には、前述の状況を踏まえ、速やかに避難を開始することが重要。	流域雨量指数の3時間先までの予測値が、過去の重大な洪水害発生時に匹敵する値（警報基準の一段上の基準）に到達すると予想。 水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫するおそれが高い。 重大な洪水害（家屋の床上浸水等）が発生するおそれが高い。
警戒 （警報級） 3時間先までに警報 基準に到達すると予想	重大な洪水害が発生するおそれがあり、水位が水防団待機水位等を越えていれば自治体から避難準備・高齢者等避難開始が発令されうる状況となっているため、自治体の避難情報を確認し、 ＜避難準備・高齢者等避難開始が発令されている場合＞ 避難の準備をして早めの避難を心がける。 ＜避難準備・高齢者等避難開始が発令されていない場合＞ 河川の水位情報を確認し※4、 水位が水防団待機水位等を越えている場合には、前述の状況を踏まえ、避難の準備をして早めの避難を心がける。	流域雨量指数の3時間先までの予測値が、重大な洪水害が発生する値（警報基準）に到達すると予想。 水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫するおそれがある。 重大な洪水害（家屋の床上浸水等）が発生するおそれがある。
注意 （注意報級） 3時間先までに注意報 基準に到達すると予想	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意。	流域雨量指数の3時間先までの予測値が、軽微な洪水害が発生する値（注意報基準）に到達すると予想。 水位周知河川・その他河川が増水し、軽微な洪水害（道路冠水や家屋の床下浸水等）が発生するおそれがある。
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意。	普段と同じ状況。雨のときは、雨水が河川に集まり流れ下る。

※1 洪水警報の危険度分布に関わらず、自治体から避難勧告等が発令された場合や河川管理者から氾濫危険情報等が発表された場合には速やかに避難行動をとってください。
※2 洪水予報河川の外水氾濫については、洪水警報の危険度分布ではなく、河川管理者と気象台が共同で発表している指定河川洪水予報等を踏まえて避難勧告等が発令されますので、それらに留意し、適切な避難行動を心がけてください。
※3 河川の水位情報は「川の防災情報」で確認してください。その他河川では水位を観測していない河川がありますので、その場合は、早めの避難の観点から、速やかに避難を開始することが重要です。
※4 河川の水位情報は「川の防災情報」で確認してください。その他河川では水位を観測していない河川がありますので、その場合は、避難の準備をして早めの避難を心がけてください。